

まず、皆様にとって大変忙しい時期に、私事でお騒がせして申し訳なく思います。16日には私のような小者にもったいない講演会・壮行会を催して頂き、多数のご来場を賜り、妻共々感激しました。その他多くの暖かいお心使いを本当にありがとうございます。

さてここでは、思い出を綴る様に自慢話をしたのでは嫌味になるので、あえて、私が当社に貢献したのではないかと自負できる事項を述べます。

年賀状を作った(大体初笑い系であり、「ふざけている」と不評も買った)。

人事に尽くした。

佐竹さんを選んだ。

事務職員の採用試験問題(特に適性)を作った。

田中さん 岡田さんを選んだ(大内さんは社長の的中)。

西越さんがピンチの時、諦めずに頑張ろうと鼓舞した。

酪農学園の新付属病院落成式後の講演に呼ばれ、蹄病を中心とした乳牛の臨床について喋った際に、富岡君の我が社への興味を引いた。

1年足踏みした菅原さんの採用を佐竹さんと富岡さんとで決めた(その後…)。

帯広畜産大学に出向いて講義と会社案内、および懇親会をセットし、住谷君の獲得を裏から仕組んだ。

『ころさく』を作った。腰の負担はきっと少ない。後輩たちの健康に寄与できるであろう。また、農場が行う個体管理に寄与できると自負する。

第四胃変位を主とした一般的な開腹手術を起立位で行い、背中での麻酔(腰椎間後方硬膜外麻酔)を取り入れた。現場で行える手術はほぼ可能である。

同じく手術時、ドレープの貼り付け法と、第四胃ガスの吸引法を考案した。

そういえば、手術時の保定について、杵場やマセン棒で牛を押さえつけないで行うゆるい保定に関しては、山下さんに習った。

死蹄を使っての削蹄および蹄病治療方法の教育法に尽力した。

死蹄の保定法を考案し(「蹄王」および「蹄王II」)、酪農学園の実習に取り入れられた。

なお、削蹄方法の教育内容については、2005年にオランダの職業訓練学校であるPTC+に出向させていただき、ピーター・クルースターマン先生じきじきに教わる事が出来たのは非常に大きい出来事であった。

当社に居たお陰でたくさんの、優秀で著名で素晴らしい方々に巡り合う事が出来た。

そのようなビッグでグレートな方々のほとんどは、黒崎先生と山下先生(陰に鈴木先生 鷺山さんなどの著名で素晴らしい先生方が介在された)が引っ張ってきた方々だった。そのような交流が今後も続くように願う。

安富先生、濱田先生などのニュージェネレーションの先駆者である佐竹先生の活躍は、世界の頂点との交流を持続することでもある。

当社当地での交流を思うと、他の診療所に比較して様々な実習研修生が訪れている(宿帳と称して、滞在記録を付け始めたのは私の考案だった)。

多くは黒崎先生と繁殖およびコンサルテーションの実際を見に来ることである。そこで、私は、「繁殖・コンサルを勉強しに着たら、臨床も優れていた」＝「黒崎先生に会いに来たら他にも良いのが居た」と言ってもらえるような印象を与えるような臨床のスタンダードを、特に蹄病と乳頭および開腹手術、アイスタットの導入などで行った。

そもそも畜大から移るときにやりたかったことが3つあった。
車のカラーリング(これは黒崎先生がやっていたことに驚き、共鳴した)。

牛の吊り上げ器(吊起帯)と、投薬器の普及。吊起帯は、当社関係農場ほぼ全戸に普及した。

長靴・作業着を農場に置くというバイオセキュリティ。これは、今後日本の牛診療スタイルのスタンダードになって欲しいと願う。

さて、次いで壱岐へ行くわけだが、思えば普段から、空いている店に私が入ると、不思議とお客が後から後から入ってくる。今回の転職時も、私の希望の後に問い合わせが矢継ぎ早に来てしまったので、結局入社試験が行われ、8月1日採用の急展開となった。

壱岐島は福岡・佐賀・長崎の3県がほぼ同距離で望めるが、佐賀には玄海原子力発電所が存在し、30km 圏内になる。

壱岐から福岡までフェリーで1又は2時間、その後1時間で母の元に辿り着ける。今後はもう少し訪問する機会が出来る。

壱岐で最も高い場所に黒崎砲台というものがあり、毎日見上げることになる(壱岐に行ってもクロサキ様の下で働くことになるのです)。

以上、良かった側面から書いてみましたが、反面ダメだったことは何ページ書いても足りないほどです。ご容赦頂いている皆様と会社の皆に感謝するばかりです。

平成8年1月から15年間 ありがとうございました。

今後とも皆様の農場を当社がサポートする良い関係であり続け、両者が発展されることを心から願います。

最後の最後にもう一ネタ:

ある農場の従業員さんに本をプレゼントしました。

多くの日本人の従業員さんたちに日常を聞いてみると、

ただ仕事して ただ寝るだけ たまにパチンコの方が 実に多い。

そこで、せつかく時間があるのなら、「本を読もう」と勧めたいのです。今回私が選んだのは「ポプラポケット文庫 日本の名作」シリーズからの6冊です。

将来、別海の思い出になるかもしれないし、本を読む習慣が定着すれば幸いですから。



農場内限定使用を条件に
阿部車(平2サファリ41万5千km)
をお譲りします。
THMSにお電話下さい。
応募多数の場合抽選。